

# 【国語（書く領域）・小4・「感動を言葉に」】①

## 育成を目指す資質・能力

(知識及び技能) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(1)オ  
(思、判、表等) 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができ  
る。 B(1)エ  
(学びに向かう力、等) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を  
養う。

## ICT活用のポイント

作成した詩を推敲する場面で、学習支援ソフトを活用し、アドバイス交流や推敲前後の作品を比較する授業。

### 【つかむ】

単元の課題を共有し、学習の見通しをもつ。

家族に感動が伝わるように、表現を確認したり詩を整えたりしながら詩を書こう。

### 【追究する】

言葉を選んで詩を書き、伝えたい内容や相手に応じて詩を推敲する。

### 【まとめる】

詩を読み合いよい表現を共有することで、推敲の良さや観点について一般化する。

## 事例の概要

- 共同編集機能を活用して、お互いの作品を観点に沿って推敲する。
- 学習支援ソフトを活用して、推敲の前後を比較する。

### 【事例におけるICT活用の場面①】

- 共同編集機能を活用して、使ってお互いの作品の推敲し、端末上の付箋を使って意見を伝え合う。その後、付箋を参考にして各自で推敲し、整えた詩はノートに記述する。

### 【事例におけるICT活用の場面②】

- 最初に作成した詩と推敲した後の詩をカメラ機能を使って端末に記録する。学習支援ソフトで二つの詩を並べて表示して比較することで、推敲することの良さや、観点について確認する。

# 【国語（書く領域）・小4・「感動を言葉に」】①

## 【事例におけるICT活用の場面①】

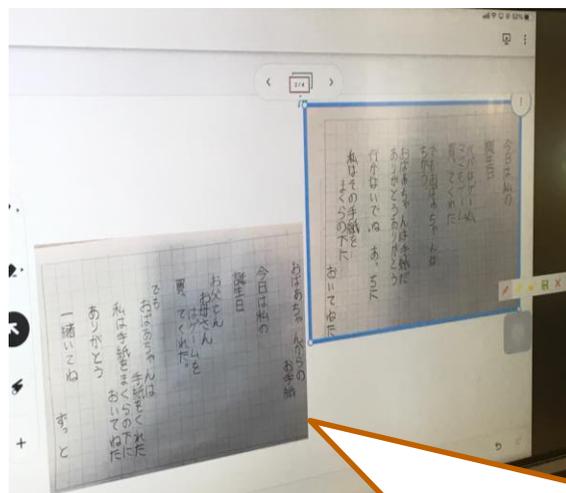


ウェビングマップ、イメージ写真、アドバイスが一覧で確認できるため、推敲する場面では今までの学習を振り返りながら、修正することができる。

## 【事例におけるICT活用の場面②】



詩をノートに書く活動を重視し、提出はカメラ機能を使って行った。画像に残しておくことで、推敲前後の詩を比較して、推敲することの良さを実感できる。



お互いの作品について観点をもとに推敲する場面では、学習支援ソフトの共同編集機能を活用し、電子付箋に書いたアドバイスを共有した。アドバイスを記入する際には、詩で伝えたい相手や伝えたい感動をグループで共有した上で、交流活動を行った。

詩に表現したいイメージ画像、関連する言葉を集めたウェビングマップ、アドバイスを書き込んだ付箋等、今までの学習の流れが一覧で表示できるため、推敲を行う時にも確認することができる。

推敲した後の詩はノートに記述し、カメラ機能を使って画像で保存した。今回の授業では、手書きで詩を表現することを重視した。

児童数名の詩を取り上げて推敲前後を比較し、言葉や語順などを変更した部分を中心に、相手に感動が伝わる表現になっているのかについて話し合った。授業の振り返りでは、推敲のよさや見直したい観点について記入する児童が多く見られた。

- 【活用したソフトや機能】
- ・学習支援ソフト
  - ・電子黒板
  - ・カメラ機能